

# 九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

04

2018 Apr.

vol.110

平成30年度新入生歓迎

総長・学部長からのメッセージ

【特別対談】

産学で育む 共創のこころ

株式会社三菱総合研究所 代表取締役社長 森崎 孝

国立大学法人九州大学 副理事・共創学部長 小山内 康人



歓迎!新入生  
伊都で初めての合格発表

# 歴史散策

KYUDAI HISTORY STROLL

18

## 九州大学 熱帯農学研究センター

キャンパス統合移転に向け、にわかには気にならなかった農学部周辺ですが、普段は緑に囲まれた独特の景観を帯びています。中でも貝塚門に近い位置にある熱帯農学研究センターは、演習林本部として作られた経緯を持つことから、1931(昭和6)年竣工の昭和初期の建物としては珍しく、木造平屋建でかわいらしい造りをしています。設計者はかつてのグラミンハウスを設計した渡部善一氏で、寡作な氏の作品の中でも、現存する稀少な建物です。今年いっぱいとなった箱崎キャンパスの姿を見に、今春入学された新入生の皆様も是非とも一度訪れていただければと思います。

市原猛志(大学文書館 協力研究員)



熱帯原産の植物に包まれるような熱帯農学研究センター(2016年4月撮影)

### 目次

02

平成30年度新入生歓迎  
総長からのメッセージ  
学部長からのメッセージ

07

【特別対談】  
産学で育む共創のこころ  
株式会社三菱総合研究所 代表取締役社長 森崎孝  
国立大学法人九州大学 副理事・共創学部長 小山内康人

11

記者会見レポート

15

KYUDAI SPECIAL TOPICS

16

KYUDAI TOPICS

22

Information

23

九州大学基金 29

同窓会だより

- 第26回「東海九大会」
- 法学部東京同窓会総会・懇親会
- 第6回熊本同窓会
- 見納め箱崎キャンパス!
- 教育学部同窓会(鴻臚会)総会&懇親会
- 台湾同窓会新年会
- 関西同窓会公開講座・新年賀詞交歓会

26

29

MUSEUM REPORT

30

広報室学生スタッフのお仕事

#### 表紙について

雨天の中、多くの報道陣が詰めかけた伊都キャンパス・センターゾーン。3月8日(木)は平成30年度一般入試(前期日程)の合格発表でした。昨年までは箱崎キャンパスで行われていましたが、今年初めて、伊都キャンパスが会場となりました。

各サークルのユニフォームを身にまとった在学生たちが集まり、合格者を探し出しては「おめでとう」のかけ声とともに胴上げが始まりました。歓声が飛び交うキャンパスは見事なハレの日を迎えました。

- 編集・発行：九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744
- TEL:092-802-2130 ■FAX:092-802-2139
- E-mail:koho@jimukyushu-u.ac.jp
- Webサイト:http://www.kyushu-u.ac.jp/
- 印刷：株式会社ミドリ印刷 ■編集協力・取材：株式会社チカラ
- 撮影：岡本正人、加来和博、中西ゆき乃、平川雄一郎
- デザイン：才原貴生 (Office Chameleon)

- ◎お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。
- ◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
- ◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。
- ◎次号は、2018年7月発行予定です。

# Change・Challenge・Creation



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんのこれまでの努力が実り、九州大学の一員になられたことを、本学を代表して心から歓迎します。また、新しく九大生となられた皆さんを、今日までしっかりと支えていただいたご家族や関係者の方々に、心からお祝いとお慶びを申し上げます。

これから皆さんは、この九州大学で4～6年間の貴重な時間を過ごすことになります。皆さんが現在属している時期、いわゆる青年期は柔軟な思考を通して自分自身の方向性を見出し、アイデンティティを確立していく変化(Change)する時期です。勉学を通して学問の広さや深さを知り、課外活動、ボランティア活動や趣味などを通してさまざまな人との出会いや交流を深め、有意義な学生生活を過ごしてください。また、社会の諸課題と真摯に向き合い、さらに自身を見つめること、すなわち「自分とは何なのか」「何をしたいのか」と『主観を磨く』ことを大切にしてほしいと思います。

大学での学びは高校までの学びとは違います。つまり、「教えてもらう」から「自ら学ぶ」に変わるということです。九州

大学では平成26年4月から「基幹教育」がスタートしました。皆さんがこれから学ぶ基幹教育では、それぞれの専門分野を学ぶ前にさまざまな学びの機会を創り、幅広い視野を育成すると同時に、生涯にわたって自律的に学び続けるアクティブ・ラーナーとしての「ものの見方・考え方・学び方」を学ぶための姿勢と態度を修得してもらいます。

また、九州大学のキャンパスにはアジアを中心に世界中から2300人を超える留学生が集まっており、海外の有力大学等への留学プログラムも充実しています。異なる文化や価値観を持つ多くの人と接し、お互いを理解することが大切です。そのためにも基幹教育における幅広い学びを修得し、世界に向けて挑戦(Challenge)してください。

最後に、新入生の皆さんには、失敗を恐れずさまざまな課題に果敢に取り組んでいただきたいと思います。そして、自分の夢をしっかり持ち、新しい価値を創造(Creation)するようにしてください。この九州大学で共に学び、グローバル社会でリーダーとなるための基盤づくりに邁進されることを期待します。

# 学部長からのメッセージ

## 学びの枠を超えろ。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。共創学部の教職員一同、みなさんのご入学を心より歓迎いたします。

今、我々は様々な地球規模の課題に直面しています。大規模地球変動、民族・宗教対立など、これらの課題はいくつもの要因が複雑に絡み合っており、ひとつの学問分野の知識だけで解決することは困難です。共創学部は、このような課題を解決することのできる新たな高度人材を育成するために設置されました。今年、共創学部へ入学されたみなさんは、その第1期生です。複雑かつ多様な課題にも怯むことなく、文系・理系といった既存の学問の枠組みを超え、様々な学知を適切に組み合わせ、さらには、言語や文化、価値観、歴史、専門知識などが異なる人々と共に力を合わせて、新たな未来を切り開いて欲しい。我々、教職員も全力でサポートします。

地球の歴史を1年に例えると、学部の4年間は0.028秒。あっという間です。悔いのないよう突っ走って欲しいと思います！



共創学部長

小山内 康人 おさない やすひと

専門分野／地質学、岩石学

## この深遠なる知の世界によろこ

ご入学おめでとうございます。文学部の教職員・在学生一同、皆さんを心より歓迎します。

文学部では、私たちが用いる言葉を通じて、人間の本质とその営みを探求しています。その分野は、大きく四つに分かれています。人類が生み出してきた東西の様々な精神的所産を通して、真理の探究を行う哲学コース。特定の地域と時代における社会の特質を、実証的かつ理論的に解明する歴史学コース。多様な文学作品から、その背景をなす文化や文学そのものを省察する文学コース。社会と人間の間から、問題を発見し、仮説を立て、実践的調査研究を行う人間科学コース。

こうした四コースは、さらに二十一の専門分野に分かれ、多様な学問の世界が広がっています。どうぞこの深遠なる知の世界にふれてみて下さい。

また、この四月から、文系四学部が共同で実施する「文系4学部副専攻プログラム」が始まります。学部の枠を超えて、人文・社会科学分野の知的な広がりを獲得するために、様々なプログラムを用意しました。この新たな試みにも積極的にチャレンジして下さい。



文学部長

佐伯 弘次 さえき こうじ

専門分野／日本史学

## 人の心と育ちへの好奇心と探究心

ご入学おめでとうございます。教育学部の教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。

九州大学教育学部は、教育学と心理学を二つの大きな柱として、人の心と育ちを理解し、それを支える様々な領域について学び、探求する場です。さらに今年度からは「文系4学部副専攻プログラム」や初めての心理職の国家資格である公認心理師になるための科目など、新しいカリキュラムが開講します。皆さんは、教育学部の専門的な学科とともに、九州大学が誇る人文・社会学分野の学術研究の最先端を学部の枠を超えて広く深く学ぶことができることでしょう。

教育学部は少人数で学生も教員もともに学び合うことを特徴にしています。アットホームできめ細やかな指導と支援を心がけています。21世紀を生きる若い皆さんが、人という不思議で愛すべき存在に対して飽くなき好奇心を抱いてくださることを、そして私たちとともにその探求にいっしょに乗り出してください。願っています。



教育学部長

黒木 俊秀 くろき としひで

専門分野／臨床心理学

# 平成30年度 新入生歓迎

## 法学・政治学の世界へようこそ!

ご入学おめでとうございます。法学部の教職員一同を代表して、皆様のご入学を心より歓迎いたします。

法学部で皆さんがこれから学ぶ法学・政治学は、経済学などとともに、社会科学と呼ばれています。簡単に言えば、社会のあり方を研究する学問です。めまぐるしく状況が変化する現代、これまでの歴史と現状を踏まえつつ、社会のあり方を大胆にデザインすることができる人材が求められています。法学部での勉学を通して、世界に通用する構想力を養ってください。

九州大学法学部は、1924年に九州帝国大学法文学部法科として創設され、1949年に法学部として独立しました。これまで実業界、官界、法曹界、学界などにおいて多くの優れた人材を輩出し、全国的に高い評価を得ています。皆さんにとっても、将来無限の可能性が開かれています。2018年度からは、文系4学部が共同実施する「文系4学部副専攻プログラム」が始まり、自分の将来の進路に沿った科目を学部横断的に履修することが可能となります。法学部での勉学や留学、友人・先輩・教員との交流を通して、自分の能力を最大限に発揮できる天職を見つけてください。



法学部長

村上 裕章 むらかみ ひろあき

専門分野 / 行政法学

## 新しいぶどう酒は新しい革袋に

新入生の皆さん、九州大学経済学部へようこそ。経済学部の教職員一同を代表して、心よりお祝い申し上げます。

さて経済学部は、今年の9月末日をもって長年住み慣れた箱崎キャンパスから伊都キャンパスに移転します。従って、皆さんは、4年間で伊都キャンパスで過ごす最初の学年となります。「新しいぶどう酒は新しい革袋に」の喩えの通り、経済学部・大学院経済学府においては、2018年度から、伊都キャンパスへの移転に合わせて、学部ではアウトバウンド型国際教育プログラムである「グローバル・ディプロマプログラム(GProE)」を、大学院ではビジネススクールを含む専攻横断型の英語による教育プログラムである「グローバル・ビジネスサイエンス・プログラム(GBSP)」をスタートさせます。これらのプログラムでは、日本人の学生諸君を積極的に海外に送り出すと同時に、世界中から意欲と能力のある学生たちを迎え入れることを企図しています。さらに、2018年度には、文系4学部が共同して実施する「文系4学部副専攻プログラム」という新しい学部教育プログラムもスタートします。

新入生の皆さんには、この経済学部、そして大学院経済学府の新しい教育の試みに、積極的に参加をし、協力をさせていただきたくことを切に希望いたします。



経済学部長

磯谷 明德 いそがい あきのり

専門分野 / 制度経済学  
進化経済学

## 考えることを楽しむ

新入生の皆さん、九州大学へのご入学おめでとうございます。理学部を代表して心よりお祝い申し上げます。

理学部には物理学、化学、地球惑星科学、数学、生物学の5学科があります。理(ことわり)は物事のすじみちで、自然の仕組みを理解することが理学の目標です。未解明の問題を理解したいというのは、人間の知に対する本能的な欲求です。そのような問題を理解するというの是一种の発見で、それを成しえたときの感動は言葉で表すことができません。皆さんもその感動を味わってみませんか?そのためには科学の基礎をしっかり学んでおく必要がありますが、大切なことは自分で考えるということです。これまでは与えられた問題を最短時間で解くことが求められましたが、これからはどのように考えて答えに近づいていくかというプロセスが問われます。同じ問題でも異なる角度から考えることによって新しい発見が得られます。それが考えることの楽しみです。ぜひ皆さんも考えることを楽しんでください。学問に限らずいろいろなことに対して、考えるという習慣をつけておくことは今後の人生においても大いに役立つでしょう。

また、大学時代はいろいろな経験を積める時期でもあります。充実した学生生活を送り、卒業までに人間として大きく成長していただくことを期待しています。



理学部長

和田 裕文 わだ ひろふみ

専門分野 / 磁性物理学

## 医学部へようこそ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。意欲と希望にあふれる皆さんを医学部に迎えたことを大変嬉しく思います。

これから皆さんは、一年間伊都キャンパスで学んだ後、場所を馬出の病院キャンパスに移し、「未来の医学・医療を担うプロフェッショナル」となるための基本を身につけることになります。医を学ぶことは、自分自身を学ぶことであり、そして社会と繋がることでもあり、時に厳しくもとても楽しい営みです。今からの四年間あるいは六年間は長いようですが瞬間に過ぎ去ることと思います。そして、友、先輩後輩、師と巡り合うことと思います。どうか出会いを大切にしてください。また、専門以外のことにも積極的に取り組み、広い視野を身につけてほしいと思います。よく学びよく遊び、芸術・スポーツに親しみ、友と語り、そして本を読みましょ。多角的に知性を磨くことはもとより、感性もしっかりと鍛えましょ。医の問題は全て、多かれ少なかれ「如何に生きるべきか」という問いに重なってきます。

皆さんが大学生活を大いに楽しむとともに、これからの人生の礎を築いてほしい、と切に願っています。



医学部長

住本 英樹 すみもと ひでき

専門分野／生化学

## 大学生活を楽しもう。ただし日々の努力も忘れずに。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。九州大学そして歯学部への入学を心より歓迎いたします。

皆さんは、今、大学での新生活を目前に控え、あれをやってみよう、これもやりたいと希望に満ち溢れていることと思います。それらを実行して大学生活をおおいにenjoyしてください。しかし、希望と同時に若干の不安も抱えているかもしれません。歯学部は学生数が少ない比較的小さな学部ですが、諸君の先輩も教員も皆、歯科医療、歯科医学という同じ道に生きる人々です。皆さんのやりたいことを伸ばし、悩める時は相談に乗ってくれる人がたくさんいます。これから始まる大学生活を通して、今抱えている希望と夢を私達と一緒に実現して行きましょ。

皆さんは、卒業後には歯科医療あるいは歯科医学・生命科学に就くリーダーとなるのが期待されています。そのための努力を惜しんではなりません。ある有名スポーツ選手が「努力(練習)は裏切らない」と言いましたが、まさにその通りです。将来の自分の価値に向けて努力を惜しむことを忘れず、大学生活をenjoyしてください。



歯学部長

古谷野 潔 こやの きよし

専門分野／補綴歯科学

## 九州大学薬学部で自分を磨け

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。薬学部への入学を心より歓迎します。

今までの与えられる学習とは全く異なった次元上の社会の始まりです。自ら受けた講義を選び時間割を作成するなど、自主性が重んじられるため、しばらくは戸惑う事も多いでしょうが、やり甲斐も大きいでしょう。

薬学部には創薬科学科と臨床薬学科の2学科がありますが、いずれの学科でも薬の専門家を目指します。創薬は薬の創造ですが、化学合成、細胞実験、治験など様々なステップがあり、それぞれに専門家が必要です。医薬品の個別適正化使用は薬剤師の重要な使命で、副作用無く、薬効を最大限に得ることを目指しますが、そのためには、体内動態、相互作用など、やはり多くの領域にプロフェッショナルアビリティを必要とします。学部の上には大学院があります。大学院での研究どっぷりの生活も夢ではありません。

薬の専門性を高め、さらに目標を高く、自分磨きができる有意義な学部生活を期待します。



薬学部長

家入 一郎 いえいり いちろう

専門分野／薬物動態学  
薬理遺伝学

### 変革とチャレンジの時代

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。自然に富み、最新の設備と建物が整った伊都キャンパスへようこそ。

工学を学ぶ皆さんは、エネルギー、環境、超高齢化社会など、様々な問題の解決や新しい世界創りに貢献できるチャンスを持っています。工学が日本の将来を担うという意気込みをもって勉学に精進してほしいと思います。大学ではここまで勉強すれば良いという限界はありません。大学の講義や実験・演習は、皆さんがより一層勉強するためのきっかけを与えているに過ぎません。自分が面白いと思ったことを思いっきり主体的に学んで下さい。

社会構造は急速に変化しています。たとえば、AI(人工知能)の発展により今後10~20年で現在の仕事の半分がなくなると言われています。しかし、変革と同時にチャンスも生まれるでしょう。無くなる仕事があれば、新しい仕事も生まれます。今後の技術には、将来の変革を予測しつつイノベーションをリードする革新性が求められます。皆さんには、イノベーションを起こせる人財、社会をリードする人財になってほしいと思います。

皆さんのチャレンジに期待しています。



工学部長

久枝 良雄 ひさえだ よしお

専門分野/応用化学

### 芸術工学へようこそ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

芸術工学部は今年50周年を迎えます。「芸術工学」は、科学技術と人間の最も自由な発現である芸術を融合させた学問分野であり、芸術工学部は一貫して「技術の人間化」を理念に掲げ、技術を人間生活に適切に利用するための道筋を設計する「高次のデザイナー」を養成してきました。

芸術工学の始まりから50年がたち、その必要性はますます大きくなっています。社会的課題は公害の克服から、少子高齢化、環境共生へと変化していますが、人間が技術を賢く利用することによって、より幸せな生活を送るための芸術工学であるという目的は不変です。

さて、次の50年が経過し、「芸術工学100年」を迎えたとき、芸術工学はどうなっているのでしょうか。それは皆さんを含む芸術工学にかかわる全ての人にかかっているといえます。夢を持ち、チャレンジ精神旺盛な皆様を心から歓迎します。

あなたも芸術工学に参加してください。



芸術工学部長

谷 正和 たに まさかず

専門分野/人類学

### 明確な目標をもって、グローバル社会を支える人材に!

新入生の皆さん、農学部へのご入学おめでとうございます。農学部では、「生命、水、土、森、そして地球から学び得た英知を結集し、人類の財産として次世代へ伝え、人類と地球環境の豊かな共存を目指して、進化する農学を実現する」をミッションとして教育・研究を行ってきました。そして、今日まで国際的に通用する専門性を有するばかりでなく、自然科学から社会科学までの学際性を兼ね備えた、各界で活躍する優れた人材を多数輩出し、社会に大きく貢献してきました。これからは、皆さんが農学部のミッションのもとに集い、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉に貢献しうる農学部創立99年の伝統に新たなページを加えてください。

農学部の入学に当たって皆さんにお伝えしたいことは、明確な目標を設定して欲しいということです。そして、その実現のためのプロセスを大切にしてください。その際、自律の精神とともに多くの先生や友人とのコミュニケーションを積極的にとることを心がけてください。これからの4年間、如何に充実した大学生活を過ごすかは、あなた自身にかかっています。チャレンジ精神と創造力を磨き、豊かな人間性を身につけるとともに、グローバル社会を支える専門的知識と広い視野を併せもった人材に大きく成長してほしいと願っています。

九州大学での充実した学生生活を通した、皆さんの今後の成長を楽しみにしています。



農学部長

福田 晋 ふくだ すずむ

専門分野/食料流通学

# 学生が自ら問題を定義して、 解決のための方策を考えてほしい。

— 三菱総合研究所と九州大学、どちらも「共創」がキーワードになっていますが、具体的には今後どのような取り組みをしていく予定ですか？

森崎 最近、当社が事業ミッションとして掲げているのが「未来共創」です。社会課題をビジネスで解決して未来につなげていく「未来共創イノベーションネットワーク」という新しい試みを通じ、「解くべき社会課題を設定し解決策を集め、共創による事業開発により社会実装を実現する」ことを目指しています。具体的には、まず何をしなければいけないのかアジェンダを設定する。次に解決策を集める。そして解決策を活用しながら企業や大学、国や自治体と一緒に事業開発を具体化する。この大きな3つの流れで事業を進めています。九州大学ではこの4月に新しく「共創」をテーマにした学部がスタートすると伺いました。

小山内 はい。「共創学部」がスタートします。地球上には人類が抱える課題が無限にあります。例えば地球温暖化。気候変動なので自然科学がベースで考えられることもあるし、人類の活動が原因だとも考えられるので、そのときは社会科学や人文科学を

使って課題解決に向かわなければなりません。今まで大学が進めてきた人材育成の流れは、深く狭く専門的に学ぶものでした。確かに部分的には解決の方法を見いだせるかもしれませんが、温暖化全体を考えるとその中の一部分でしかない。全体を解決するためにどうすれば良いのか、広い視野から人文科学・社会科学・自然科学、あらゆる学問を包括的に考えられるようにならないければなりません。課題を実際に見いだせる学生を育成したいのです。

森崎 日本は課題先進国と言われる国です。私たちが、今までは政策を提言するシンクタンクとして発展してきました。しかし、今では「実装する、実現する、実践する」アクトまでを視野に入れたシンク&アクトタンクに変わってきています。しかし、我々だけでできることは限られているので、社会のステークホルダーである皆さまと積極的に協業を図ります。従来親しくしていた大企業や大学、自治体はもちろん、今まで付き合いの少なかったベンチャー企業にもネットワークに参加して頂きます。2018年1月時点で103の会員様があります。まさに貴学部にも賛助会員様ということでご加入頂きました。今回の

## 対談

# 共創のこころ

三菱総合研究所の「未来共創」の志には、共通の理念があります。小山内康人副理事・共創学部長は、「共創学部」への期待やメッセージなどについて対談しました。

国立大学法人九州大学  
副理事・共創学部長

## 小山内 康人

北海道大学大学院修了後、岡山大学などの助教授を経て、2004年に九州大学教授に就任。地質学、岩石学を専門にしている。1987年に日本地質学会研究奨励賞、1992年に日本地質学会小藤賞を受賞、2014年～2016年 日本鉱物科学会会長。著書に『新版地学辞典』『岩石学概論』などがある。



共創学部の設定は、社会課題を解決する高度人材養成ということで、まるで示し合  
わせたようだと感じました(笑)。

— 企業側から見て、共創を学部で教えることに対する考えは？

**森崎** 社会が持つ課題をどう解決していくのか。これは国や企業だけが抱えるものではなく、もつと俯瞰的に考えるものであり、そのための教育が必要です。社会人になって初めて社会課題に立ち向かうのではなく、学生のときから取り組むことが重要だと考えています。社会課題は、いろいろな専門分野が結びついた複合的な問題であり、複雑化しています。一つの専門分野だけで解決することができません。あらゆる英知を集めて、問題の解決を図る「共創」が求められます。これは世界的に共通です。今回、学生のうちから学べる機関として貴学が初めて声を上げてくださいました。

**小山内** 全国の大学で「共創」や「共同」といったワードが入る名前の新しい学部がどんどん設立されています。例えば、「地域共創」や「地域共同」。このように大学の英知を地域の発展のために使おうと考えている

大学が増えています。共創学部も似たような名前だと感じるかもしれませんが、実はそうではありません。人類が抱える課題は何なのか。学生が自ら問題を定義して、解決のためにどのような方策を取るのか考えてほしい、と設立した学部です。スケール感が違いますよね。教育機関において必要と要求されるものの一つだと思っています。

**森崎** これはまさしく日本が先進国であるが故に、地域にとどまらず、全世界を視野に入れているのです。例えば、日本で進んでいる高齢化の問題は、10年後20年後には中国で起きます。しかも日本のように豊かになる前にこの問題が起きます。いち早く認識して研究し、ソリューションを提示する。日本への貢献に見えますが、実は全世界への貢献にもつながっているのです。

— 今までは大学で一つの専門分野を学んでから社会のリーダーを育てるような流れでしたが。

**森崎** 個人的な意見になりますが、海外の若者は二つ以上の専門分野に詳しいのは当たり前で、一つを深く学べば良いという話ではなくなっています。複数のことに挑戦するならば、その過程も変わります。最

日本だけではなく、実は全世界への  
貢献にもつながっている。

特別

# 産学で育む

いよいよ4月からスタートする「共創学部」。「共創学部」のテーマと  
三菱総合研究所の森崎孝代表取締役社長と九州大学の  
育成したい人物像、新入学生への

株式会社三菱総合研究所  
代表取締役社長

## 森崎 孝

1978年に東京大学経済学部卒業後、三菱銀行(現三菱UFJ銀行)入行。2008年には、三菱東京UFJ銀行常務執行役員 兼 三菱UFJフィナンシャル・グループ常務執行役員。2012年には、三菱東京UFJ銀行専務取締役、2014年副頭取に。2016年10月に三菱総合研究所の副社長、12月に社長に就任。

# 共創学部は社会課題を解決できる 人材に育つ。私も期待しています。

初に専門的な分野を学ばなければいけないということはありません。

**小山内** 九州大学は、「21世紀プログラム」という、どの学部にも所属しない学生を17年間ほど教育してきました。自分の学びたい講義を全学部から選べます。学部には縛られないカリキュラムを作り上げて、自ら目指す方向を設定するプログラムです。これまでイノベーションを含めて非常に面白い展開をする学生をたくさん輩出しているんです。そして今回、共創学部として生まれ変わり、引き続き能力の高い学生を育てていけるのではないかと思っています。

**森崎** 「エデュケーション」から「ラーニング」に変わってきているんですね。「教育」は誰かから教えてもらうものです。いわゆる受動態の世界。「ラーニング」は自ら学ぶことです。小山内先生がやろうとされていることはいわば「ラーニング」で、きっかけを与えて自ら学びに来る学生を教育する。結果、学生たちは後に専門的な分野まで興味を持って自ら学んでいくのだと思います。それは一つではなく、複数の分野かもしれない。そのような人材を生み出そうとされているのではないのでしょうか。

**小山内** 大学に入ると学ぶことを忘れて



しまふ雰囲気があります。共創学部の学生には「アクティブラーニング」という形で、常に学び続けてほしいですね。私たちもそのような学生を教育していきたいと思っています。

— そのためには学生をずっとモチベイトタイプしておく必要がありますね。それが先生たちの腕の見せどころになるのでしょうか。

**小山内** そうですね。学生だけに期待しているということではなく、教員側にも期待

するということです。教員が高い目線で世の中を変えようと思っていないと、学生にも伝わりませんから。教員の意識一つで、九州大学から新しい取り組みがたくさん出てくるかもしれません。

**森崎** 「未来共創イノベーションネットワーク」のアドバイザーの中には、非常に問題意識の高い大学の先生たちがいらつしゃいます。私たち研究員もそうですが、かなり熱量を持っていて、さらに専門性の高い人たちと関わることで、自分の知らない別世界が広がります。それぞれの熱が組み合わせられたときには、ものすごいエネルギーを發揮するものです。

— 共創学部の学生にどんなイメージを持ちますか？

**森崎** 受験勉強をして偏差値の高い大学に入ったけれど何をしたらいいのだろう、という学生はやはり弱いですね。問題意識はある程度持っていないといけない。当社は新卒採用試験で30名程度採用しますが、皆さん問題意識が高いと思います。共創学部の学生は先生たちに4年間、大学院に進めば6年間、あるいは9年間鍛えられるわけですね。非常に変わってくると思います。

— 共創学部の学生の就職先を懸念する声もありますが、どのように思われますか？

**森崎** 当社の「統合報告書」に「社会課題を解決する」という言葉が多く出てきます。非営利の国際的な機関に限らず、多くの上場企業でも同様かと思えます。企業は単に儲けるために存在しているわけではありません。全ての社会課題に対応できるわけではないのですが、本業としている領域を通じて社会課題を解決するのが経営のミッションだと思えます。この考えが昔と比べるとかなり浸透してきました。そういう意味では共創学部で学んだ学生は、これからさらに求められる人材だと思えます。

**小山内** 専門性を生かして課題に取り組む方法と、課題そのものを見直す方法の2パターンがあります。共創学部は後者を選択しました。

**森崎** 企業側が変わってきたのでしよう



左より、九州大学 岡本主幹教授、小山内副理事・共創学部長、三菱総合研究所 森崎社長、小野オープンイノベーションセンター長

# 産学で育む共創のこころ

株式会社三菱総合研究所  
代表取締役社長

森崎 孝

国立大学法人九州大学  
副理事・共創学部長

小山内 康人

# 教員が世の中を変えようと思っていないと 学生にも伝わらない。

ね。今は企業もいかに地域や社会に貢献できるかに重点を置いています。経営者の意識が変わってきているのです。

— 共創学部の新入生に向けてメッセージをお願いします。

**小山内** 学生は自分たちで学ぶべき分野を選び、目指す方向を決める。学生のうちから課題に取り組み、高い壁に立ち向かう

た経験のある人こそ、活躍する人材なのだと思います。その教育革命が今まさに九州大学共創学部からスタートするのです。

**森崎** 先が見通せない時代だからこそ、待っていてもしょうがない。自ら学んでほしい。「共創」するには、幅広い知識が必要で

す。一つだけ専門分野を持つていても、ソリューションまで辿り着けない。だから、いろいろなところに学びに行く。それが本当の意味での「共創」なのでしょう。そんなアクティブな学生になってほしいと思います。「Beyond the border(境界を越える)」と



三菱総合研究所エントランスにて

いう言葉があります。何かをしようとするとき、境界や障害があるものです。その境界、障害を越えてこそ本当の「未来共創」が実現できるのだと思います。

## 株式会社三菱総合研究所

1970年創業、約760名のさまざまな分野の研究員を擁する総合シンクタンクです。企業経営、社会インフラ整備、教育、医療・福祉、環境、資源・エネルギー、安全防災、先端科学技術、ICTなどの領域において、常に時代の羅針盤たる役割を担っています。解決すべき社会課題とあるべき未来社会像の間にあるギャップを埋めることを価値として事業を展開している会社です。

# 記者会見レポート

世界の文化遺産保存に重要な役割を担う

## 日本人初！ 国際イコモス会長に就任

法学研究院 主幹教授

河野 俊行 こうの としゆき



記者会見の様子(河野主幹教授と村上法学研究院長)

平成29年12月14日(木)、第19回国際イコモス総会において、本学の河野俊行教授が国際イコモス8人目の会長に就任しました。日本人が国際イコモス会長に就任するのは、今回が初めてです。

河野教授は国際文化遺産法などが専門で、文化財の違法取引を防止する法規制の問題にも取り組んでいます。平成15年にユネスコ総会で採択された無形文化遺産保護条約の起草に携わりました。その後、平成23年に国際イコモスの執行委員に選出され、平成26年から同副会長を務めていました。今後は文化財保護に必要な制度やシステムの構築に取り組みたいと意欲をみせています。

イコモスは国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)の諮問機関である「国際記念物遺跡会議(ICOMOS / International Council on Monuments and Sites)」の略称であり、世界文化遺産登録の事前審査を行い、ユネスコに対して登録の可否を勧告するなど、世界の文化遺産保存に重要な役割を担っています。

平成29年12月28日(木)の合同取材会では会長就任を受け、「イコモスは欧州の建築家を中心に生まれた団体ですが、今後グローバルな組織として一層発展、確立が求められると思います。今後はアフリカやアジア太平洋でも活動を活発にし、真にグローバルな文化遺産の専門団体に発展させたいと思います。また文化遺産を守るシステム構築に取り組みむと同時に、中立性や専門性の高さを維持していきたいと考えています。」と抱負を述べています。河野教授は、高校時代から地図を片手に神社仏閣を巡るのが好きで、将来は渉外弁護士として海外を飛び回るつもりでしたが、図書館で司法試験の勉強のための本を手にとったとき、大学で研究を続けるのもいいなとふと思いたち、研究者の道へ進むことにしたそうです。28歳で本学准教授に着任後に留学したドイツで、文化財の違法取引に関する研究報告をし、これを機に国際文化遺産法にもフィールドを広げたそうです。

### ICOMOS(国際イコモス)とは

ICOMOSは、1965年(昭和40年)に設立された国際NGOで、加盟各国の文化遺産保存分野の第一線の専門家や研究者、専門団体によって構成されています。ユネスコ(国連教育科学文化機関)をはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、文化遺産保存の理論と技術、応用に関する様々な分野で活動するほか、ユネスコの世界遺産条約の諮問機関として、登録の審査、モニタリングの活動等を行っています。153カ国にある支部に、10,100人余の会員を擁し、文化遺産の価値維持向上のための重要な役割を果たしています。

日本イコモス国内委員会(1979年発足)は、日本国内のICOMOS会員が組織する団体で、イコモスの国際ネットワークの日本における拠点として活動しています。



第40回世界遺産委員会(イスタンブール)にて(2016年)



久保総長と河野主幹教授



第19回国際イコモス総会(デリー)にて(2017年)

平成30年1月23日(火)の定例記者会見では、学生との関わりについて問われ、「グローバルな人材を育てたいという想いがあり、文部科学省の『大学の世界展開力強化事業』という国際人材育成プログラムにヘリテージを主なテーマとして申請し、採択されました。それは平成28年度で終了しましたが、Sという最高の最終評価を得ました。それが終了した後、昨年9月には本学の学生6名を連れて、マニラの協定校で模擬世界遺産委員会を開催しました。実際の文化遺産に係る課題をテーマとし、全て英語で議論をするというプログラムで、今後はユネスコのジャカルタ事務所やイコモス・フィリピンを巻き込んで国際人材育成に貢献したいです。」と語りました。

また、河野教授は「1年のうち3分の1以上は海外出張をしています。理解のある法学研究、また、暖かくサポートしてくださる九州大学に大いに感謝しています。」と述べました。村上法学研究院長は「法学研究としてもできる限り支援していきたいと考えています。」

学生にとって身近な教員が世界で活躍されるというのは大きな励みになるでしょう。」と、さらに久保総長は「日本人初となる国際イコモス会長に就任することになり、大変光栄に思います。九州大学としても応援していきます。」とエールを送りました。

法学研究 主幹教授  
**河野 俊行**

**略歴**

- 【1986年4月】九州大学法学部助教授
- 【1997年2月〜現在】九州大学大学院法学研究教授

**イコモスでの活動**

- 【2001年】国際イコモス執行委員に選出
- 【2004年】国際イコモス副会長に選出
- 【2006年】「リコンストラクション」プロジェクト
- 「世界文化遺産のトラウマ事態からの回復とリコンストラクションに関するガイダンス文書」(ICOMOS Guidance Document on Post-Trauma Recovery and Reconstruction for WH Cultural Properties)
- (イコモスHPで入手可能)
- 【2007年3月】イコモス会員と研究者・学術団体を結び付けた the ICOMOS Universities Forumを開催

**河野俊行新会長から一言**

このほど8人目のイコモス会長に選出されました。現在世界のヘリテージ保全をめぐる状況は大変厳しいものがありますが、イコモスの奮闘なくして各国のヘリテージ保全も世界遺産も存続しえません。及ばずながら全力を尽くして信頼に応えたいと思います。また九大法学部のGVプログラムという国際人材育成のためのプログラムなどを通じて、私の経験を教育に反映できればとも願っています。



日本イコモス国内委員会HP: <http://www.japan-icomos.org/>

# 記者会見レポート

九州大学で本格サービス開始

## 日本初! AI時代のスーパーコンピュータシステム“ITO(いと)”

情報基盤研究開発センター センター長

谷口 倫一郎 たにぐち りんいちろう

情報基盤研究開発センター 副センター長

小野 謙二 おの けんじ



記者会見の様子



スーパーコンピュータITO

九州大学情報基盤研究開発センターは、平成30年1月より富士通製のスーパーコンピュータシステム『ITO(いと)』の本格サービスを開始しました。ITOは、伊都キャンパスに初めて設置されたスーパーコンピュータです。

ITOは、国の第5期科学技術基本計画に示された超スマート社会の実現、ならびにAI(Artificial Intelligence/人工知能)・ビッグデータ、データサイエンスなどに対応した研究基盤を目指し、柔軟な利用形態を提供できるように設計されました。

これまでのスーパーコンピュータは、気象予報や水の流れのシミュレーションなど複雑な方程式を高速に解くことに主眼が置かれていました。利用者から見ると、計算をスーパーコンピュータに依頼して、その結果が得られるまでしばらく待つという一括処理方式でした。ところが、最近では、AI等で大量のデータ、いわゆるビッグデータを処理するニーズが高まってきています。このような問題では、物理シミュレーションのように法則等があらかじめわかっていないので、少し

計算を進めて、途中の計算結果を確認しては次の計算を調整するといった、対話的な処理が求められます。ITOの重要な特徴の一つは、大規模データに対してこの対話的な処理を効率的に行えるようになったという点にあり、大規模データを効率よく計算するために大容量のメモリも搭載しています。また、最近のAIでは深層学習と呼ばれる手法が脚光を浴びていますが、ITOでも深層学習に基づく計算を高速に実行できるように、GPUと呼ばれる特殊なプロセッサを大量に搭載しています。それに加えて、インターネットと接続可能なシステム構成及び運用方針にしましたので、インターネットを通して集めたビッグデータを直接扱うことができるようになりました。

このように、ITOは、今までは考えられなかったような大規模データの処理を前提とした新しい研究の進め方(データサイエンス)をしっかりとサポートしていきます。

今後、九州大学情報基盤研究開発センターは、西日本地区における計算科学のハブ拠点

として、JHPCN(学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点)やHPCI(革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ)の活動を通じて、ITOを学内外の研究者に提供し、新材料開発や創薬支援、ゲノム解析などへの活用を推進していきます。

### センター長から一言

ITOは、今まで以上に皆様に使っていただけるスーパーコンピュータを目指しています。これまで、スーパーコンピュータを使ってこれなかった方も、是非、ITOの新しい機能を利用して、新しい研究に取り組んで頂ければと思います。



問い合わせ先:九州大学情報統括本部 HPC事業室  
TEL:092-802-2683 E-mail:request@iii.kyushu-u.ac.jp  
Webサイト: <https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/>



久保総長と飯塚さん

学生ベンチャーを創出

## 学生サークル 「九州大学起業部」から 起業第1号誕生!

医学部 4年

メドメイン株式会社 代表取締役

飯塚 統 いいづか おさむ



Live Sharks Tank優勝(2017年11月18日)

九州大学起業部は、2017年6月に大学公認の部活動として設立されました。学生ベンチャーの創出を目的とし、10年間で50社、うち5社の上場企業の創出を目指します。

部員はチームを組んでビジネスプランを作成し、国内外のビジネスコンテストに参加しながらプランをブラッシュアップし、起業を目指します。起業の準備中や起業後も学外の起業家やベンチャーキャピタル、弁護士、会計士がメンターとして起業支援を行います。このような環境の中、九大起業部から2018年1月11日(木)に第一号の学生ベンチャーとなるメドメイン株式会社が誕生しました。九大発・学生ベンチャーとして、世界市場に向けて、医療分野のイノベーションを目指します。

### メドメイン株式会社について

メドメイン株式会社は医療ITという分野での技術開発・サービス提供を行っている会社です。

社名のメドメインは医学を表す「Med」+ ネットワーク領域を表す「Domain」からなる造語です。

AIによる病理画像診断ソフトの開発を中心に、医学部向けクラウドサービスの開発・運営なども行っており、海外展開を目指しています。



記者会見の様子

### 起業部員・顧問から一言

医学部 4年  
メドメイン株式会社 代表取締役  
飯塚 統 いいづか おさむ

自動診断ソフトの販売を目指して2年ほど開発などを行ってきた中、昨年にC&Cのプロジェクトとして採択されたことをきっかけに、事業化に向けてさらにプロジェクトを推進し、昨年11月にはシリコンバレーのピッチコンテストで優勝、今年1月には会社という形にすることができました。これから早期のリリース・販売に向けて頑張っていきたいです。

起業部 顧問  
学術研究・産学官連携本部 ベンチャー創出推進グループ 准教授  
熊野 正樹 くまの まさき

九大起業部設立から約半年で、第一号ベンチャー「メドメイン」が誕生しました。起業部の活動から実際に起業した学生が現れ、部員も大きな刺激を受けているようで、メドメインに続けと、起業部は活動に熱を帯びています。九州大学の支援体制に感謝するとともに、学生と一緒に未来を創っていきたいと思います。頑張れメドメイン!

九州大学起業部 E-mail: info@qdai-startup.com Webサイト: http://qdai-startup.com/

「深く」そして「広く」学び、大きな翼で世界に羽ばたこう！

## 2018年4月、「文系4学部副専攻プログラム」を開始

2018年4月、本学の文系4学部(文学部・教育学部・法学部・経済学部)は共同で「文系4学部副専攻プログラム」をスタートさせます。それに先立ち、2018年2月16日(金)、椎木講堂大会議室において、「「文系」の挑戦」と題して記者会見を行い、文系4学部の学部長列席のもと、同プログラムをとりまとめている山口裕幸人間環境学研究院長、プログラムの企画運営を担当している岩田健治経済学部教授が、それぞれ説明を行いました。

同プログラムは、文系4学部のそれぞれに蓄積されてきた知的資産を相互に開放し、学部学生に体系的に提供するものです。それにより、多様化する現代の社会問題を学際的に把握し、解決することができる、視野の広い人材を共同で育成していきます。

プログラムは二つのタイプがあり、このうち(1)横断型プログラムは、「現代のための歴史」「クロス・アジアの人間と社会」「超情報化社会の文系知」「グローバル時代のビジネス」という現代社会を解くための四つの魅力的テーマを設定し、それぞれのテーマ別に文系4学部で開講されている科目を集め、体系的に提供することで、「深く×広く」学ぶことができる全国的にもユニークなプログラムです。続いて、(2)専門領域型プログラムでは、文系4学部が合計13の専門領域別プログラムを他学部生向けに提供することで、複数の専門領域の方法論や学問体系を「深く×深く」学ぶことができます。いずれのタイプも、修了要件

を満たした学生には、卒業時に学部の学位記とともに「プログラム修了証」が授与されます。

文系4学部が連携して立ち上げるこの新たな取組により、本学の文系学部の学生は、学部で学ぶ深い専門性に加え、学部の枠を超えた人文・社会科学分野の知的広がりを獲得することができます。深くかつ広い知識を携えたプログラム第1期生は、3年後の2021年春、九州大学から世界に羽ばたきます。



文系4学部副専攻プログラムが展開される伊都キャンパス・イーストゾーン完成予定図



記者会見の様子

左より、坂元一光教育学部長、久保智之大学院人文科学研究院長、荒殿誠理事・副学長、久保総長、村上裕章大学院法学研究院長、磯谷明德大学院経済学研究院長、山口裕幸大学院人間環境学研究院長、大学院経済学研究院 岩田健治教授

## Topics

### 01 九州大学エネルギーウィーク2018を開催

2018年1月29日(月)から2月2日(金)の5日間にわたり、「エネルギー分野の英知が垣根を越えて結集 いま未来のためにできること」をテーマに、エネルギーに関する一大シンポジウム「九州大学エネルギーウィーク2018」を開催しました。

このシンポジウムは、本学のエネルギー関連部局が連携し帯同参画したシンポジウムであり、「未来エネルギー」を中心テーマとする国際ワークショップ、産学官連携ワークショップ等を開催し、エネルギー研究の国際的なハブ機能を担うための研究者の交流の場として位置付けられています。

第2回目となる今回は、エネルギー研究に関する国内外の著名な研究者の招待講演をはじめ、国際共同研究を目的とした海外からの学生・若手研究者の招へい・研究発表を行いました。

また、エネルギー研究教育機構が未来エネルギー研究の若手登竜門として、未来のエネルギー研究を担う



開会のあいさつをする若山理事・副学長

若手研究者や博士課程学生の支援・育成・発掘を目的として実施した「若手研究者・博士課程学生支援プログラム」の採択者によるポスター発表と併せて、海外招待研究者と本学博士課程学生、海外招へい大学院生によるパネルディスカッションを行いました。

連日、国内外で活躍している研究者をはじめ、幅広くエネルギーの研究をしている研究者、学生、産業界、行政関係者等多くの方々が講演や研究発表を行い、5日間を通して約1,800名の参加者が来場し、盛会の内に幕を閉じました。

来年も「九州大学エネルギーウィーク2019」の開催を予定しています。



パネルディスカッションの様子

## Topics

### 02 椎木講堂音雅会(おんがくかい)2018を開催

2018年2月24日(土)、伊都キャンパスにある椎木講堂コンサートホールにて「椎木講堂音雅会2018」を開催しました。

音雅会は、地域の皆様、学生、教職員に伊都キャンパスおよび椎木講堂に親しみを持っていただくために2015年より毎年開催している無料コンサートで、4回目となる今回は、九大ピアノの会、本学邦楽部、アコースティックギターサークル「unplugged」、タップダンスサークルおよびアカペラサークル「HarmoQ」の5つの学生サークルと職員が出演し、約220名の来場がありました。

第一部・二部は「ピアノ&他楽器・歌声・ダンスの響宴」「楽器と歌声・ダンスの響宴」というタイトルのもと、複数サークル合同で親しみのある歌謡曲などが披露され、第三部は「ピアノ名曲クラシック」にて、九大ピアノの会によるクラシック演奏が披露されました。休憩時間中は九大ピアノの会による没後100年・ドビュッシーに関するミニ講義も開かれ、会場内は何度も大きな拍手に包まれ、和やかな雰囲気うちに終了しました。



第一部の様子 ピアノの会、unpluggedによるコラボ



第二部の様子 邦楽部、unpluggedによるコラボ

## Topics

# 03 九州大学サイエンスパーク構想を糸島市と検討開始

2018年1月10日(水)、本学の久保総長、若山理事・副学長(産学官連携担当)と、糸島市の月形市長、谷口副市長は、九州大学サイエンスパーク構想の共同研究を平成29年度と30年度に実施することを発表しました。サイエンスパークとは、大学の英知や優れた研究成果を、産業の発展に迅速につなげるために大学の近くに企業やベンチャーなどが集積したものです。海外では、シリコンバレーにあるスタンフォード大学リサーチパークや、英国のケンブリッジ大学サイエンスパークなどが有名で、大学の周りで最先端の技術研究を進展させ、大学の研究を加速させると共に、地域や社会に新たな雇用やビジネスを生み出しています。

本学の周りは、山あり海ありと自然環境が豊かです。このような優れた環境は、研究者や技術者には憩いの場となり、イノベーションを興す重要な要素です。地元の自然環境やコミュニティとの調和を図りながら、最先端の研究開発を進める機能を持つ21世紀のサイエンスパークの姿について1年

超をかけて検討して行きます。大学と地域社会や産業をつなぐ新たな仕組みの青写真を描きます。



共同発表の様子  
左より、糸島市の谷口副市長、月形市長、久保総長、若山理事・副学長(産学官連携担当)

## Topics

# 04 「稲盛フロンティア研究センター10年記念ワークショップ」を開催

2017年12月1日(金)、本学稲盛財団記念館にて「稲盛フロンティア研究センター10年記念ワークショップ」を開催しました。

2008年4月に設置された「稲盛フロンティア研究センター」は、将来の安心・安全な社会作りに貢献するため、人と技術の調和、心と技術の調和を進める研究活動や、若手研究者の交流と育成を推進してきました。今回、センター設置後10年目の節目を迎えるにあたり、これまでの活動を振り返るとともに、これまで培った実績とその意義、並びに今後の発展計画を広く大学の内外に知っていただくことを目的として、開催されました。

ワークショップでは、久保総長の挨拶に続き、センター長である若山理事・副学長からこれまでのセンターの歩みと今後の発展計画について講演が行われました。

その後、京セラ株式会社の稲垣正祥執行役員 研究開発本部長、仲川彰一 研究開発本部総合研究所長をお迎えして特別講演が行われ、学生・教職員及び学外の方をあわせ240名を超える参加者は、熱

心に聞き入っていました。

また、特別講演に引き続いて「稲盛フロンティア研究センター研究発表会」が行われ、センターの元・現教員らが現在の研究をわかり易く紹介しました。前センター長である藤木幸夫前研究担当理事も参加し、ワークショップは盛会の内に終了しました。



登壇者ら一同(後列はセンターの元・現教授たち)

## Topics

# 05 九大混声合唱団、全日本合唱コンクールで金賞を受賞

2017年11月25日(土)、26日(日)、東京芸術劇場(東京都豊島区西池袋)にて第70回全日本合唱コンクール全国大会が開催されました。本コンクールには、全国から地方大会を勝ち抜いた11の団体が出場し、本学九大混声合唱団は大学・ユースの部のトリをつとめ、金賞を受賞しました。

本コンクールにおいて九大混声合唱団は、子どもへの慈しみなど様々な想いが詩にのせられた『子どもは……』という曲と、宮沢賢治が、彼自身の内にある綺麗でありながらも、激しく、そして哀しい心象を情景に込めて描いた詩をテキストとした「混声合唱とピアノのための『春と修羅』」の2曲を演奏し、110人で織りなす重厚なサウンドと表現の幅を生かした繊細な演奏で約2000人の観客から大きな拍手を頂きました。

3年ぶりの全国大会金賞は現役の団員にとって非常に感慨深く、来年北海道で行われる第71回全日本コンクールにおいても良い成績を修められるよう、より豊かな音楽を求めて日々研鑽していくことを新たな決意としました。



指揮の竹田亨司先生(右から2番目)、伴奏の植村和彦先生(左)と共に

## Topics

# 06 本学学生が三重県で日本未記録種のハチを発見

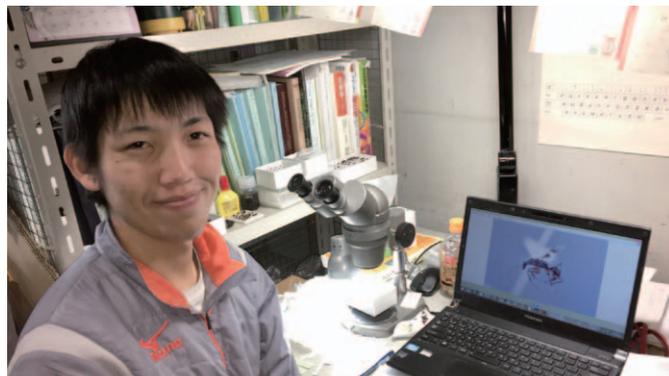
本学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室に所属する大学院生、辻尚道さんが日本未記録種のハチを発見し、2017年12月9日(土)に本学の教員らと連名で学会発表を行いました。

三重県津市にある総合博物館で、学芸員の大島康宏さんが中心となり、「みんなでつくろう!ミュージアムフィールドの実物昆虫図鑑」という事業で昆虫調査を行っています。辻さんが2017年9月9日の調査に参加した際、辻さんの研究対象であるゾウムシと一緒に5mmほどの大きさのカマバチというハチの仲間が採れたそうです。ハチの分類学が専門の農学研究院三田敏治助教が調べたところ、このハチはこれまで日本で知られていなかったホソクビカマバチ属の一種であることが分かりました。



今回得られたホソクビカマバチ属の一種

今回の発見は、2017年12月9日(土)に開催された日本昆虫分類学会第20回大会で、「三重県より得られたNeodryinus属の日本未記録種について(ハチ目:カマバチ科)(発表者:三田敏治・辻尚道・大島康宏)」として紹介され、学術専門誌で発表される予定です。辻さんは、「今回のように身近なところで意外な珍しい生き物が採れることもありますが、これをきっかけに、身の回りの自然環境も実はとても大切だということに気づいてくれる人が増えれば、この上ない喜びです。」と語りました。



顕微鏡でカマバチを観察する辻さん

## Topics

# 07 台湾スタディーズ・プロジェクトを開設

2017年10月1日(日)、本学で「台湾スタディーズ・プロジェクト」が開設されました。本プロジェクトは、本学と台湾の文部科学省に相当する教育部が、3年間資金を共同で提供することで実現し、日本では3つめ、そして九州では初の拠点となります。また、本学と台湾の学生間、研究者間の交流促進、博士号取得後の若手研究者の育成、九州地区の台湾研究者のネットワーク構築、そしてアメリカ、ヨーロッパ等世界各国の台湾研究拠点との共同研究のためのプラットフォーム構築を目標としています。

これに関連する最初の授業が10月10日(火)に箱崎キャンパスで行われ、授業の初日には、領事館に相当する台北駐大阪経

済文化弁事処の戎義俊所長が「九州と台湾の強固な信頼関係」というテーマで学生に講演していただきました。

今後、台湾との研究者間、学生間の交流の機会が更に増加すること、そして学生の台湾への理解が深まることが期待されます。



「台湾研究講座」の開講にあたって講演する戎義俊総領事

## Topics

# 08 江蘇杯中国語スピーチコンテストを開催

2017年12月3日(日)、本学西新プラザにおいて、本学、本学の大学間交流協定である中華人民共和国の南京大学、江蘇省の江蘇国際文化交流中心の共催により、「江蘇杯 中国語スピーチコンテスト」を開催しました。

本コンテストは、大学入学後に中国語を学び始めた学部1、2年生を対象とする中国語の暗誦を競う大会で、本学を含む九州地区国立大学から15名が参加して日頃の練習の成果を披露しました。出場者の学習歴はいずれも2年未満でしたが、地道な練習を積み重ねたことがうかがえる発表が続きました。審査の結果、最優秀賞を2名、優秀賞を4名が受賞し、他の9名も敢闘賞を受賞しました。

コンテスト終了後は、何振良駐福岡中華人民共和国総領事の特別な御配慮により、総領事館において懇親会が開催されました。



全出場者と久保総長、来賓、審査員および司会の先生方

## Topics

# 09 工学部同窓生から伊都キャンパスへ桜の寄附

2018年の秋に移転完了を予定している伊都キャンパスでは、生態系への影響に配慮し、自然と共生する環境に優しいキャンパス整備を行っています。

この度、工学部化学機械工学科昭和41年卒業生の同窓会「よい柿の実会」から、本学に対して桜6本(河津桜3本、ウコン桜3本)と植樹記念石碑のご寄附があり、2017年12月4日(月)、同会の方々による植樹祭と石碑の除幕式が行われました。

当日は、同会の瀧口正寛会長から、卒業50周年を記念して桜を伊都キャンパスへ寄附できたことは卒業生として非常に意義深い旨の挨拶がありました。その後、本学を代表して新津勝二総務部長から、潤いのある伊都キャンパスの構築

に貢献していただいたことへの謝辞とともに、引き続き本学へのご支援をお願いする旨の挨拶がありました。



除幕式の様子

## Topics

# 10 九州大学ビジネススクール15周年記念講演会を開催

九州大学ビジネススクール(以下、QBS)は、2018年1月13日(土)、福岡・天神のアクロス福岡で設立15周年記念講演会を開催しました。QBSは、産業と技術を理解しアジアの成長をリードするMBA(Master of Business Administration、経営学修士)を養成するというミッションを掲げ、この15年で600名近くのMBAを輩出しています。

講演会は、「ビジネススクールは地域にどのような貢献ができるのか」というテーマで、最初に、九州経済連合会の麻生泰会長に基調講演を行っていただき、続いて、本学経済学研究院星野裕志教授のファシリテーションで、パネル・ディスカッションを行いました。矢田俊文外部評価委員長、九州連携機構の小早川明德会長、同窓会QAN(QBS Alumni Network/九州大学ビジネス・スクール同窓会)の寺松一寿会長、村藤専攻長をパネリストとし、ご来場いただい



麻生泰会長による基調講演

た方も含めて活発なディスカッションが行われました。

講演会には、QBSの在校生・卒業生、一般参加を含め約140名が参加しました。QBSの卒業生は福岡だけでなく、国内・海外のあちこちで活躍しており、アジアの提携校も15校になりました。短期エグゼクティブプログラム、ビジネスプランコンテストや日経セミナーなど、福岡・九州・アジアで徐々にQBSの輪が広がっています。



パネルディスカッションの様子

## Topics

# 11 新トレーニング施設「松濤錬成場」の開場式を開催

2018年1月15日(月)に、新たに完成したトレーニング施設「松濤錬成場(しょうとうれんせいじょう)」の開場式を開催しました。

「松濤錬成場」は、1階を2部屋のトレーニング室、2階を多目的室とする施設で、その名称は、かつて箱崎松原の松が残るキャンパスの内外で寒風吹きすさぶ中、自己の心身を鍛えた姿を彷彿とさせ、伊都キャンパスにおいてもその名称を引き継ぐことにより、かつて箱崎松原で心身を鍛えた卒業生が懐かしむだけでなく、箱崎松原につながる歴史を引き継いでいくとの思いが込められております。

当日は、約60名の公認学生団体の学生が参加し、久保総長の挨拶では「平成31年度に本学主管で行われる七大戦(全国七大学総合体育大会)で、優勝できるように有効に活用して欲しい。」と学生へ向け激励しました。

これを受けて、体育



テープカット

系団体代表の安田体育総務委員長をはじめ、アメリカンフットボール部、ラグビー部、硬式野球部、九大フィルハーモニー・オーケストラからそれぞれ謝辞があり、安田委員長からは「体育系団体をより強化するため、トレーナーを講師に招いた講習会を計画するなど、当施設を計画的に活用し、七大戦の総合優勝を目指したい。」と、体育系団体の強化に向け強い意気込みで総長の挨拶に答えていました。

その後、久保総長や学生代表によるテープカットを行い、開場式は終了しました。



参加者による集合写真

## 九州大学日本橋サテライト開所記念式典を開催

本学は、ライフサイエンス分野のイノベーション創出に向けた産学官連携を推進・強化するため、首都圏における活動拠点として、2017年9月、東京・日本橋に「九州大学日本橋サテライト」を設置しました。

その開所を記念して、2018年2月15日(木)に、東京・日本橋の日本橋ライフサイエンスビルディングにおいて、九州大学日本橋サテライト開所記念式典を開催し、磯谷桂介 文部科学省研究振興局長、岡野栄之 一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)理事長をはじめ、ライフサイエンス関連企業や関連団体から100名を超える方々にご参加いただきました。

式典では、久保総長から「九州大学のライフサイエンス分野の産学官連携をさらに加速させ、最先端の研究活動を国内外に広く発信していく拠点として、この日本橋サテライトを活用していきます。」との挨拶がありました。

また、磯谷 研究振興局長から「日本橋サテライトの活用により、大学の基礎研究の成果を臨床研究・実用化へ効果的に橋渡しできる体制が構築され、より多くの革新的な医薬品・医療機器などの



久保千春 総長

持続的創出につながることを願っています。」とのご挨拶があり、岡野 理事長からは「LINK-Jとして、今後もより多くのイノベーションにつながる交流が生まれるような機会を提供しながら、ハード面とソフト面それぞれでの支援をさせていただきたいと思います。」とのご挨拶がありました。

この後、ライフサイエンス領域における医歯薬系各部局の産学官連携の取組が紹介された後、同領域における最先端の研究プロジェクトが紹介され、参加者は興味深い話に聞き入っていました。また、式典終了後の情報交換会では、参加者及び本学関係者による活発な情報交換が行われ、盛会のうちに終了しました。



式典の様子

## 受賞のお知らせ

第34回(2018年)  
Japan Prize「日本国際賞」

「Japan Prize」(日本国際賞)とは、「国際社会への恩返しの意味で日本にノーベル賞並みの世界的な賞を作ってはどうか」との政府の構想に、松下幸之助氏が寄付をもって応え、1985年に実現した国際賞です。

【資源・エネルギー、環境、社会基盤分野】  
〈リチウムイオン電池の開発〉

吉野 彰

九州大学エネルギー基盤技術国際教育研究センター  
客員教授

旭化成株式会社  
名誉フェロー

名城大学 大学院理工学研究科  
教授

技術研究組合リチウムイオン  
電池材料評価研究センター  
理事長



第26回(2018年)  
松下幸之助花の万博記念賞

1990年に大阪で開催された花の万博にちなみ、「自然と人間の共生」という花の万博の基本理念の実現に貢献するすぐれた学術研究や実践活動を顕彰するために創設されたものです。

【松下幸之助記念奨励賞】

仁田坂 英二

理学研究院 講師

(肩書は受賞時)

## 開学記念行事を開催

九州大学は5月11日を「本学記念日」とし、例年、開学記念行事を開催しています。

今年も以下のとおり、開学記念式典および学内施設公開を予定しています。

### 開学記念式典、講演会

- 日時：2018年5月11日(金)10:00～12:00
- 会場：伊都キャンパス 椎木講堂コンサートホール
- 次第：総長挨拶、感謝状贈呈式、講演会 など
- 講演者：丸山 宗利 九州大学総合研究博物館 准教授

### 学内施設公開

一般の方や中・高校生に、九州大学の最先端の教育研究内容を知っていただくため、研究施設等を公開します。公開内容、日程等の詳細は、本学Webサイトなどにてお知らせします。

- 日時：2018年5月11日(金)を中心に開催
- 会場：各キャンパス(伊都、箱崎、病院、筑紫、大橋、演習林)

#### ■お問い合わせ

九州大学総務部総務課総務第一係

〒819-0395 福岡市西区元岡744

TEL: 092-802-2124

E-mail: [syssumu1@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:syssumu1@jimu.kyushu-u.ac.jp)

Webサイト: <http://www.kyushu-u.ac.jp/>



講演者：丸山宗利准教授



超高压電子顕微鏡(伊都)



参加者とともに散策(福岡演習林)

## 特設サイト「先生の森」リニューアル!

イラストがかわいいと人気の特設サイト「先生の森」がリニューアルしました!

新たに4名の先生が仲間入りするとともに、各キャンパスを象徴するモチーフの紹介や、季節ごとに変わる遊び心満載のトップページも楽しめます!

ぜひご覧ください。



Webサイト: <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/professor/>









## 第26回「東海九大会」

平成29年10月27日(金)、刈谷市のデンスー「D-Square」にて恒例の東海九大会が開催され、総出席者70名の盛会になりました。

講演会では副学長・主幹教授の佐々木一成氏に「水素社会実現に向けた九州大学の挑戦」という演題でお話をいただきました。水素エネルギーの将来性や、九州大学がその研究の最先端を走っていることなど、非常に興味深く拝聴いたしました。

続いて行われた懇親会では、下川勝久会長(昭和56年・工学部卒)による挨拶の後、荒殿誠理事・副学長から、伊都キャンパスの現状や九州大学の今後の展望、「共創学部」などについてお話いただきました。高江晧副会長(昭和56年・工学部卒)の乾杯に続いて、新卒者11名の自己紹介がありました。

中盤には、NHKアナウンサー内山俊哉氏(昭和61年・法学部卒)に「スポーツ放送の舞台裏」という題目で笑いを交えながら臨場感あふれるお話をいただき、皆食い入るように聞いていました。終盤では恒例の空くじなしの抽選会が行われ、大いに盛り上がりまし

た。

最後に皆で学生歌「松原に」を斉唱し、中川淳幹事(昭和51年・法学部卒)の音頭で万歳三唱を行い、お開きとなりました。



懇親会の様子



佐々木教授の講演風景

藤原達彦(平成19年・経済学部卒)

〈連絡先〉東海九大会事務局 時高豊彦(昭和46年・工学部卒)

TEL:090-9191-7616 E-mail:tokitaka@mb.ccnw.ne.jp



## 法学部東京同窓会総会・懇親会

平成29年11月15日(水)、弘済会館(四ツ谷)にて、法学部東京同窓会総会・懇親会を開催しました。

総会では、役員人事など全ての議事が承認された後、次のとおり新旧会長の挨拶がありました。

古川治次顧問(前会長・昭和37年卒)

「不易流行」をモットーに、皆さまのサポートのお蔭で任務を全うできたことに感謝する。」

櫻井龍子会長(昭和44年卒)

「労働省から最高裁判事までの仕事人生が終わったが、その間、同窓生との絆が大きな支えであった。同窓会の在り方について皆さんと考えながら任務を遂行していきたい。」

引き続き懇親会では、北嶋信顕理事(昭和57年卒・UCカード社長)による乾杯音頭の後、参加者は出身地毎のテーブルに分かれ、歓談しました。

スピーチタイムでは、陶山秀昭法学部同窓会長(昭和42年卒)や、鬼木誠衆議院議員(平成7年卒)からご挨拶がありました。

終盤には、昭和44年卒の「東京松原会」福元建三様の先導で、全員が高らかに学生歌「松原に」を

斉唱し、また同じく横手海一郎様よりエール発声がありました。

閉会にあたっては、吉戒修一理事(昭和46年卒・元東京高裁長官)より挨拶があり、再会を誓い合いました。



懇親会の様子



古川前会長と櫻井新会長の挨拶



法学部東京同窓会 理事事務局次長 黒木浩二(平成12年卒)

〈連絡先〉E-mail: kdhtokyo@horae.dti.ne.jp



## 第6回熊本同窓会

九州大学熊本同窓会は、平成29年11月18日(土)に、第6回となる総会を開催しました。

当日は午後5時より、市民公開講座「九州大学の今とこれから」と題して、約50年ぶりに新設される新学部「共創学部」について、丸野俊一理事・副学長、比較社会文化研究院の鐺木政彦教授に、ご講演いただきました。市民公開講座には、同窓生だけでなく、中高生やその保護者なども訪れ、積極的に質問がなされました。

その後、午後6時30分からは総会を、午後7時からは懇親会を開催しました。懇親会では、吉田憲史会長(昭和40年・医学部卒)のご友人である日本生命熊本支社長の松平好治様(北海道大学卒)らが、Mr.マリック直伝のマ

ジックショーを披露するなど、大いに盛り上がりました。

このほか、若手の会前会長・森野茂会員(平成12年・歯学部卒)、村上加余子会員(平成13年・芸術工学部卒)が中心となり、平成28年熊本地震について同窓生の体験や取り組みなどをまとめた、『九州大学熊本地震資料集』が配布されました。

熊本同窓会では、吉田憲史会長のお声掛けで、旧七帝大交流会との名称で旧帝国大学同窓生の集まりを昨年9月に開催しました。

今後とも、同窓の懇親を図るとともに、九州大学の名を知らしめるべく地域に貢献する活動を行っていく所存ですので、ご支援のほどよろしく願っています。



市民公開講座の様子



懇親会での乾杯の様子

熊本同窓会事務局幹事 塚本晃大(平成22年・法学部卒、平成24年・法科大学院修了)  
〈連絡先〉熊本市中央区京町1-1-22-602 塚本晃大法律事務所  
E-mail: tsukamoto.akihiro@gray.plala.or.jp

見納め箱崎キャンパス！  
教育学部同窓会(鴻臚会)総会&懇親会

平成29年12月9日(土)に箱崎キャンパス(貝塚地区)の人環会議室において、教育学部同窓会(鴻臚会)総会ならびに懇親会を開催しました。以前は天神のホテルで開催していましたが、ここ数年は「見納め」として箱崎キャンパスの見学もできるような学内で行っています。それもいよいよフィナーレ(平成30年9月移転予定)ということで、例年以上の50名ほどの卒業生が全国から集まり、楽しく和やかな会を催すことができました。

平成29年12月9日(土)に箱崎キャンパス(貝塚地区)の人環会議室において、教育学部同窓会(鴻臚会)総会ならびに懇親会を開催しました。以前は天神のホテルで開催していましたが、ここ数年は「見納め」として箱崎キャンパスの見学もできるような学内で行っています。それもいよいよフィナーレ(平成30年9月移転予定)ということで、例年以上の50名ほどの卒業生が全国から集まり、楽しく和やかな会を催すことができました。

総会に引き続き懇親会では、望田研吾会長(昭和44年卒)の御挨拶、そして狩野素朗名誉教授(昭和33年卒)の乾杯が始まり、会場に陳列した懐かしい写真や卒業アルバム、当時の履修要項や卒業論文などを着に思い出話に花が咲きました。

今年初めての参加者、若い卒業生も多く、ゲームを通じてお互いに名前を尋ね合ったり、在学当時の思い出や近況を報告したりする場を設け、時期は違っても同じ学部で青春時代を過ごした一体感を感じることができました。

次回は伊都での開催となりますが、キャンパスは移っても、時間はそのまま続いていることを実感で



総会風景



懇親会風景

鴻臚会事務局長 元兼正浩(平成元年・教育学部卒)  
〈連絡先〉鴻臚会事務局 E-mail: kouro@edu.kyushu-u.ac.jp



### 台湾同窓会新年会

平成30年1月6日(土)、九州大学台湾同窓会新年会が台北市内のホテルで開催されました。当日は台湾駐在の本学同窓生の会員(学生・教員)や交換留学で台湾留学中の本学学生、さらには出張で台湾滞在中だった久保人文科学研究院長を含め、総勢45名の参加があり、本学からは久保総長等が出席しました。

冒頭、台湾同窓会の鄭森雄会長(昭和45年・農学研究科博士課程修了)から開会挨拶があり、本新年会は毎年開催しているものの、今年は久保総長が出席されたことで、今まで以上に多くの同窓生の参加があったことに対し謝意が述べられました。

続いて、久保総長から挨拶及び本学の近況等について紹介があり、本年4月開設予定の共創学部について、10名の留学生枠があり、台湾からも優秀な学生の応募を期待することや、今後も九州大学と台湾同窓会との間で、より深い繋がりをもち続けていきたい旨の発言がありました。

その後の懇談では、出席者間で近況等を語り合ったり、久保総長を囲んで写真撮影をしたりと、終始和やかな時間を過ごしました。

終盤には、学生歌「松原に」を久保総長のリードにより参加者全員で斉唱し、盛会のうちに終了しました。



久保総長と台湾同窓会幹部の集合写真



久保総長を囲んでの集合写真

台湾同窓会幹事長 林震煌(平成6年・工学研究科博士課程修了)  
 〈連絡先〉E-mail: chemntnu@gmail.com



### 関西同窓会公開講座・新年賀詞交歓会

平成30年1月22日(月)、ハートンホテル北梅田にて、関西同窓会公開講座・新年賀詞交歓会を開催しました。

第三回となった今回の公開講座には、4月に新設される共創学部の学部長に就任予定の小山内康人副理事をお招きしました。「南極大陸の歴史を探るー南極地球科学の最前線ー」と題した講演は、クイズを交えるなど大変わかりやすく、また共創学部についても時間の許す限りご紹介いただきました。一般からも多数の来場があり、会場は満員となりました。

続く交歓会には、平成29年卒業生など13名の新入会員を含む75名の参加がありました。北野嘉文さん(昭和57年・経済学部卒)が司会を務め、上野至大会長(昭和42年・工学部卒)からは「地球や南極の歴史に比べれば、まさに一瞬であるが、このひと時を楽しみたい」と挨拶がありました。田崎雅元さん(昭和33

年・工学部卒)の乾杯ご発声とともに、会場は賑やかな雰囲気になりました。

最後は、恒例となっているコールアカデミーOBの合唱のあと、応援団OBから共創学部へのエールが送られ、全員で「松原に」を歌って閉会しました。



公開講座の様子



交歓会で新入会員からの質問に答える小山内副理事



小山内副理事を囲んで(中央が筆者)

関西同窓会幹事長 岡 政徳(昭和44年・法学部卒)  
 〈連絡先〉E-mail: osaka-office@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学総合研究博物館  
Kyushu University Museum

## 九州大学総合研究博物館の収蔵資料 日本の歴史を変えた 石炭標本(工学部列品室標本)



【写真1】海軍第一種練炭(海軍燃料廠。縦19cm、横32cm、奥行き13cm、重さ約11kg。)



【写真2】海軍第二種練炭(海軍燃料廠:黄色の斑点は硫黄分で燃やすと煙が出る)

箱崎キャンパスの旧工学部本館3階には、旧採鉱および冶金学科(現・地球資源システム工学部門、材料工学部門)関連標本を集めた列品室があります。コレクションの中には日露戦争の決着をつけた対馬沖での日本海海戦(1905年5月27日)と深い関わりがある石炭標本が展示されています。

日本海軍の連合艦隊がロシアのバルチック艦隊に勝利した要因は幾つかありますが、そのひとつは当時の軍艦の燃料であった石炭です。石炭はその炭素含有量によって区分され、90%以上を無煙炭、83~90%を歴青炭、それ以下を褐炭と呼びます。無煙炭は熱量が高く、燃焼しても黒煙が出ない事から、軍艦の機関出力向上、砲撃手の視界確保、軍は良質な国産燃料の製造を急務とし、1905(明治38)年4月に徳山に練炭製造所を設置し、採炭部を大嶺に置きました。製造所にはフランス製の角型練炭製造機が導入されました。標本(写真1)は徳山で製造された海軍第一種練炭です。同様の物が日本海海戦でも

索敵されにくい等の利点を持つ重要な戦略物資でした。しかし、日本では無煙炭の産出は少なく、ロシアとの海戦に備えて同盟国英国のウエールズ地方で採れるカーディフ炭(無煙炭)を緊急輸入しました。一方のロシア艦隊は、バルト海からの3万キロの航海に伴う燃料の調達問題に直面し、十分な量の無煙炭を確保できずに海戦を迎えました。山口県の大嶺炭田は無煙炭の代表的な産地です。海軍は良質な国産燃料の製造を急務とし、1905(明治38)年4月に徳山に練炭製造所を設置し、採炭部を大嶺に置きました。製造所にはフランス製の角型練炭製造機が導入されました。標本(写真1)は徳山で製造された海軍第一種練炭です。同様の物が日本海海戦でも

使用されたと考えられます。1907(明治40)年には平壤鉱業所で無煙炭の採掘が開始され、練炭製造所が併設されました。1910(明治43)年には英国海軍が燃料を重油に切り替え、日本海軍でもディーゼル機関の使用が普及します。それに伴い石油燃料の需要が高まり、練炭の用途は家庭用の燃料に変わります。1921(大正10)年には海軍練炭製造所は海軍燃料廠に改組されています。

列品室の石炭標本を眺めてみると、現在の暮らしとは無縁なものと思われがちな石炭が、かつては国の趨勢を左右する戦略物資であった事を再認識できます。

(九州大学総合研究博物館  
准教授 中西哲也)



【写真3】卵型練炭(海軍燃料廠:軍艦での炊飯に用いた)



【写真4】約4トンの無煙炭塊(中国山西省産)

# 広報室学生スタッフのお仕事



## 広報室学生スタッフとは？

広報室と共に九州大学のさまざまな情報を収集・発信しているチームです。毎朝の新聞のクリッピング作業を行う「広聴班」と、九大広報に掲載される『躍動』の制作を行う「広報班」に分かれており、さまざまな学部、学府より集まった総勢15名(2018年4月現在)の学生や留学生が一体となり、活動しています。

### 広聴班

新聞のクリッピング作業とは、毎朝、各社の新聞に掲載された「九大についての記事」や「他大学の話題や研究成果」などの情報を切り取ることです。クリッピングされた記事はすぐに印刷され総長、理事、事務局へと配布されます。短時間でたくさんの新聞を見落としがないよう正確に読むのは、集中力を要する大変な作業です。しかし、九大の教職員や学生の活躍を、新聞を通していち早く知ることができるといったメリットもあります。



クリッピング作業



用紙にまとめ印刷



総長、理事、事務局へ

### 広報班

広報班は、九州大学が刊行する九大広報に掲載される『躍動』の記事を制作しています。『躍動』では、毎号異なる部活動やサークル活動について取材し、みなさんにその活動内容や魅力を発信しています。取材を通して色々な九大生と知り合えたり、部活動やサークル活動の様子を直接見られることはとても興味深く楽しいです。限られた文字数の中で、どのような文章を書けば、より読者に伝わりやすいかを考えながら原稿を作成することは大変ですが、完成した原稿を見ると達成感があり、やりがいを感じられます。



## 広報室学生スタッフメンバー

広聴班リーダー 原 倅平(工学部1年)  
 広報班リーダー 坂元 渚(農学部2年)  
 韓 淑ティ(地球社会統合科学府 博士課程)  
 笠原 妃奈(理学府1年)  
 李 泰衍(工学部4年)  
 孟 含晴(工学部4年)

郝 暁阳(地球社会統合科学府 博士課程)  
 内村 優太(工学部4年)  
 平田 颯彦(工学部2年)  
 小野 聖文(農学部2年)  
 仲間 聖(理学府1年)  
 森崎 慎也(工学部1年)

井元 健太郎(工学部4年)  
 貞松 咲月(農学部2年)  
 古屋 裕美(農学部2年)  
 卒業メンバー  
 下山 ちひろ(理学府)・廣野 晃一(理学府)  
 王 琪(地球社会統合科学府 博士課程)



住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

九州大学広報室 TEL:092-802-2130 E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp  
九州大学学生後援会 TEL:092-802-5968 E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp  
九州大学同窓会連合会 TEL:092-802-2158 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学  
KYUSHU UNIVERSITY

PALOOKAS